



第5次吉岡町総合計画 2011~2020

キラリ ✨ よしおか
一人と自然輝く 丘の手タウン 吉岡町

【概要版】



吉岡町

ごあいさつ



吉岡町は平成3年の町制施行から、20年目を迎えます。その間には上毛大橋、吉岡バイパス及び国道17号前橋渋川バイパスの開通や駒寄スマートインターチェンジの供用開始などの交通基盤が整備され、それに伴い大型商業施設の相次ぐ出店や住宅地の開発などが行われ、町の様子はすっかりと様変わりし、発展を遂げてまいりました。更に、平成22年国勢調査では県内1の人口増加率となっており、今後も変わりなく増加していくことが見込まれています。

しかしながら、世界的な不況や産業構造の変化、少子・高齢化社会の到来などにより、国・地方ともに厳しい財政状況となっております。また地方分権改革の進展により、国から地方への大幅な事務の権限移譲により、町として独自に考え、実行するという、自主自立の町政運営や政策立案が必要となっております。

このような情勢において、今後も町の持続的な発展を長期視点に立って、総合的・計画的に町政運営を行うことが求められ、そのために第5次吉岡町総合計画を策定いたしました。

今後10年を計画期間とし、将来像「キラリよしか -人と自然輝く 丘の手タウン 吉岡町-」をキャッチフレーズに町政運営の指針と位置付けます。なお、今回の総合計画の策定過程においては、町民の皆様の幅広い意見を伺い、共に計画を策定することを目的として、ワークショップ、町民アンケート、町政地域別座談会、パブリックコメント、審議会委員への公募等を行いました。まずは、皆様のご意見を反映した計画ができたと考えております。また将来像の実現を目指すため、基本構想には、①将来像、②基本方針、③人口推計、④戦略的に政策を進めるための4つのシンボルプロジェクト、⑤より住みやすい町を目指すための6分野41施策からなる施策の大綱を記載し、実施することによって、町の発展を目指す考えでおります。

私のマニフェストの基本理念「将来に責任を持つ町政を」の実現のために、この計画をもとに町民の皆様に参加をいただき、住民参加型社会を構築し、地域をつくっていくことが、「将来の責任」を担保するものだと思います。

結びに、本計画の策定にあたりまして、多くの皆様方にご理解、ご指導、ご協力をいただきましたことを心から感謝を申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

平成23年3月

吉岡町長
石関 昭

計画の構成と期間

計画の構成

●基本構想

基本構想は、吉岡町の将来像を示し、それを実現するためのまちづくりの基本方針や目標人口、シンボルプロジェクト、施策の大綱、土地利用構想などを定める最上位計画です。

●基本計画

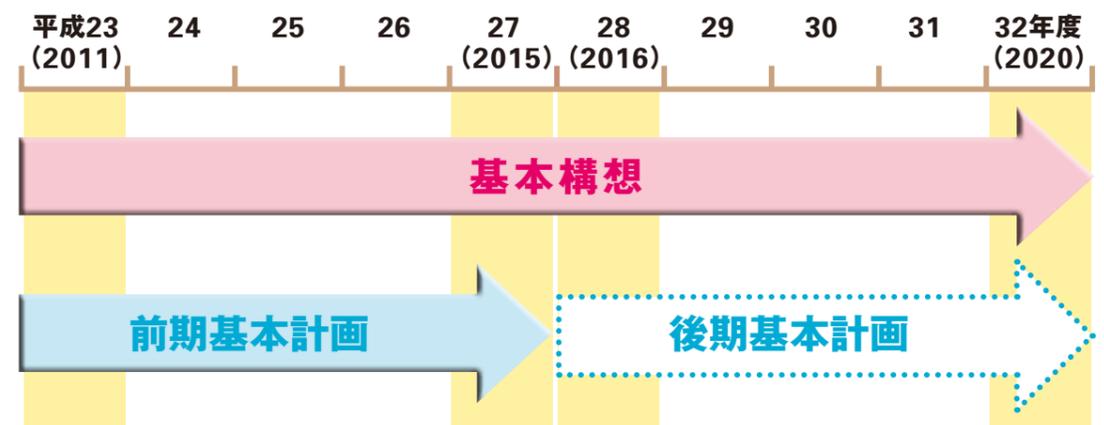
基本計画は、基本構想に基づいて各部門別の施策を具体的に示したもので、実施計画の基礎となるとともに、各個別計画との整合を図るものです。

●実施計画

実施計画は、基本計画で定められた個々の施策について、詳細に事業内容や実施の時期などを示すものです。



計画の期間



まちづくりの重点課題

1 子ども・若者を応援するまちづくり

若者の雇用の場の創出と再就職支援、若い世代の交流・結婚機会の充実、若い世代向けの住宅・住環境の整備、子育て支援への重点的な取組みとともに、子どもが自分自身や家族、地域、町に誇りと自信を持てるよう、家庭・地域・学校での自立に向けた教育や体験機会の充実が課題です。

2 健康・安心のまちづくり

高齢期を豊かに過ごし、安定した社会保障制度を維持するために、生活習慣病や介護予防の取組みをさらに進めるとともに、地域でお互いに助け合う、こころがふれあう地域福祉社会づくりが課題です。

3 環境にやさしい、うるおいのあるまちづくり

多様な自然環境の保全を図るとともに、自然を活かした体験教育や体験観光の充実、環境への負荷の少ないまちづくりによる地球温暖化の防止への寄与、公共交通網の維持・充実など、自然や地球環境にやさしい、住みやすいまちづくりが課題です。

4 住みよい、安全なまちづくり

秩序ある計画的な土地利用が求められるとともに、幹線道路網や安全な生活道路、賑わいのある交流拠点などの計画的な整備、防犯体制や地域防災体制の強化などが課題です。

5 魅力のある地域文化の創造

地域の歴史や文化遺産などを活用し、住みよい町、住んで良かったと実感できるまちづくりをめざして、個性的な地域文化を創造していく必要があります。

6 豊かな地域産業と安定した雇用のまちづくり

企業誘致や起業による若者や女性の雇用の場づくり、新たな観光資源の発掘、観光と連携した農業や商業の振興、駒寄スマートインターチェンジの大型化による広域観光ネットワークの形成などが課題です。

7 みんなで創る、自治・自立のまちづくり

限られた財源と職員の下で、戦略的・集中的なまちづくりの推進、町と町民・事業者の協働（パートナーシップ）による自治・自立のまちづくりが課題です。

吉岡町 2020年の将来像

この10年間は、さらに「住みよい魅力のあるまち」を目指し、将来像を「キラリよしかー人と自然輝く丘の手タウン 吉岡町ー」とし、その実現に向けて、町民と行政が共に協力してまちづくりを進めていきます。

キラリよしかー ー人と自然輝く丘の手タウン 吉岡町ー

- 1 支え合う健康と福祉のまちづくり
- 2 心豊かな教育と文化のまちづくり
- 3 活力ある産業と雇用のまちづくり
- 4 魅力的な自然と環境のまちづくり
- 5 住みよい便利で安全なまちづくり
- 6 町民と行政が協働するまちづくり

「キラリ」という輝きを表現する言葉を用い、町民の輝く笑顔と町の輝く将来の発展への願いを込めています。また「キラリ」と「よしか」の間に「➤（道の駅でも使われている風車マーク）」を入れ、町のシンボルである風車をアピールします。

なお、このタイトルは「住みよい町」+「魅力的な町」を個性的に表現したもので、町民が輝く町として誇りを持って住むための合言葉です。

手には方向という意味があり、「吉岡をよい丘(よし丘)」とかけています。そのため、丘の手タウンと表現しました。

目標人口と目標世帯数

吉岡町では人口減少社会の中でも、さらなる人口の増加を見込んでおり、ますますの発展を期待しています。

平成32(2020)年度の目標人口：22,000人

年度	国調実績値	国調速報値	推定値		目標値
	平成17年 (2005)	平成22年10月 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成32年 (2020)
総人口	18,060 (100.0%)	19,802 (100.0%)	20,785 (100.0%)	21,847 (100.0%)	22,000 (100.0%)
年少人口 (0~14歳)	2,957 (16.4%)	—	3,147 (15.2%)	2,984 (13.6%)	3,000 (13.6%)
生産年齢人口 (15~64歳)	11,859 (65.6%)	—	12,621 (60.7%)	12,969 (59.4%)	13,100 (59.6%)
老年人口 (65歳以上)	3,243 (18.0%)	—	5,017 (24.1%)	5,894 (27.0%)	5,900 (26.8%)

※平成17年実施の国勢調査については、年齢不詳1名を含む。

平成32(2020)年度の目標世帯数：7,500世帯

年度	国調実績値	国調速報値	予測値	目標値
	平成17(2005)年	平成22(2010)年	平成32(2020)年	平成32(2020)年
世帯数	5,509世帯	6,523世帯	7,441世帯	7,500世帯
1世帯あたり人員	3.28人	3.04人	2.80人	2.93人

まちづくりの基本方針

「キラリ✧よしおかー人と自然輝く丘の手タウン吉岡町ー」の実現に向けて、次の4つの基本方針のもとに、まちづくりを進めます。

1 人輝くまちづくり

まちづくりの一番の目的は、町民一人ひとりがいきいきと輝き、誇りと生きがいを持って生活できるようにすることです。

そのためには、町民が地域生活のさまざまな局面で力を発揮し、互いに認められ、尊敬しあえるような機会が重要となります。

本町では、これまで「人と自然が共生した 住みよいまち」を目指したまちづくりを行ってきましたが、さらに優れた歴史文化や住民の健康づくりなどの取り組みを行い、「キラリ」と人輝くまちづくりを進めます。

2 自然輝くまちづくり

利根川や多くの中小河川、船尾滝、榛名山麓の緑などの美しく豊かな自然環境や田園風景は、人々に心の安らぎと癒し、ゆとりとぬくもりを与えています。

この恵まれた自然・田園環境を保全し、公園や親水空間を整備し、自然・田園景観と調和した美しい家並みや街路景観、土地利用を進めるとともに、自然エネルギーの有効活用、地震や土砂災害などに強いまちづくり、下水道の整備やごみ処理など、「キラリ」と光る自然輝くまちづくりを進めます。

3 魅力のある丘の手タウンづくり

これまで、本町は「住みよいまち」を目指して、道路・交通環境の整備、上下水道の整備や環境対策、次世代育成や高齢者福祉の充実、健康づくりの支援、教育環境の整備などを進めてきました。

その結果、本町の人口は増加を続けてきました。この取り組みを引き続き行い、さらに魅力のある、「キラリ」と輝く丘の手タウンづくりを進めます。

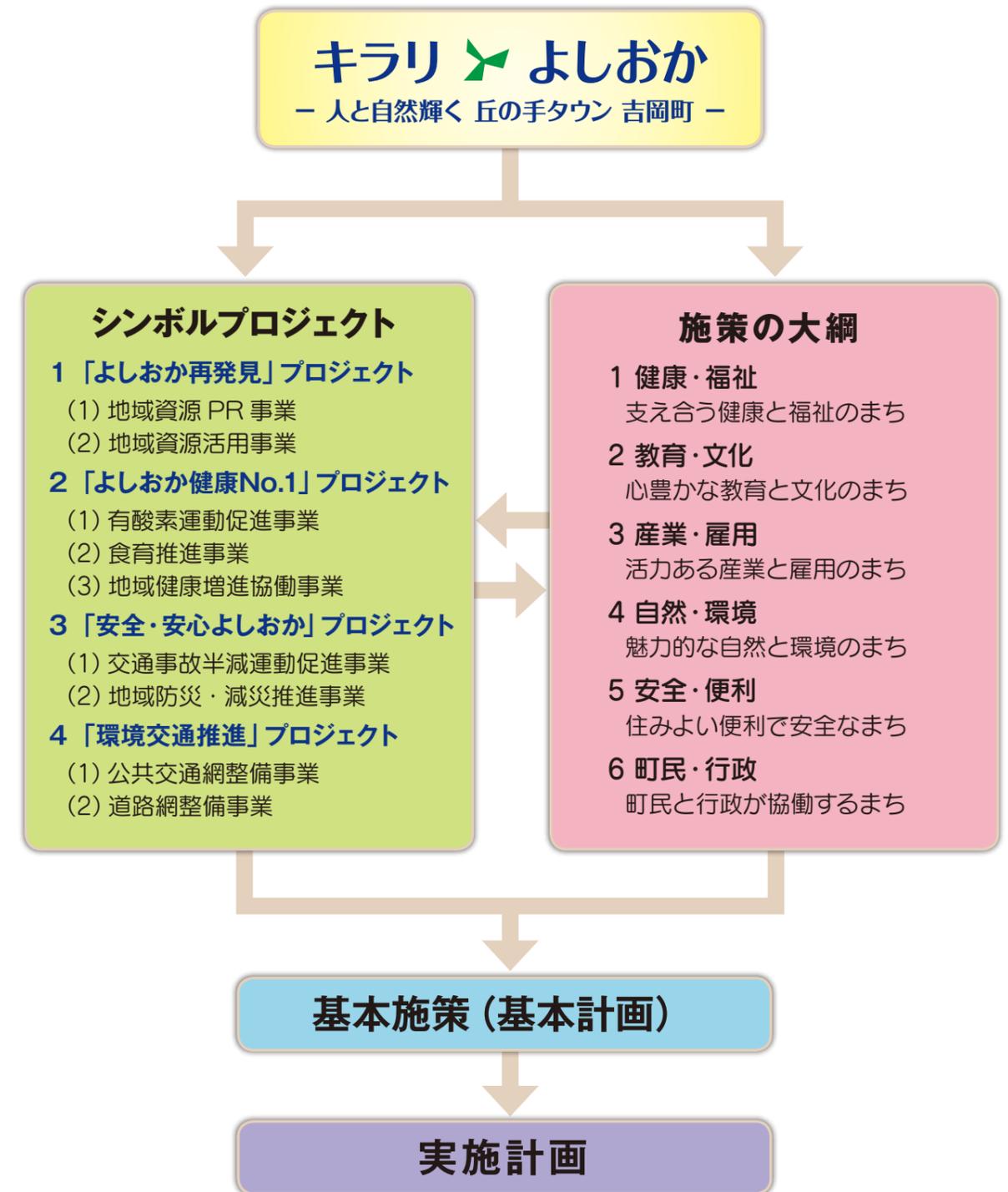
4 町民と行政の協働のまちづくり

町民と町職員が身近に接することができる町は、お互いの顔が見え、お互いに目が行き届き、柔軟で小回りがきく、素晴らしいまちづくりを進めることができる可能性があります。

厳しい財政状況のもとで、自治・自立・協働のまちをめざし、町と町民の協働(パートナーシップ)の精神で力をあわせ、人、コミュニティ、仕事、暮らしが輝く、行財政が健全なまちづくりを進めます。

シンボルプロジェクト

町民と行政が協働し、「キラリ」と輝く「よしおか再発見」「よしおか健康No.1」「安全・安心よしおか」「環境交通推進」の4つのシンボルプロジェクトに取り組めます。



1 「よしおか再発見」プロジェクト

(1) 背景

県内で2番目の落差72mの船尾滝、天皇陵と考えられる古墳にも採用された全国で珍しい二段築成八角墳の三津屋古墳、南下古墳群、桃井城址、県内初の風力発電と小規模水力発電、太陽光発電施設が集中した吉岡自然エネルギーパーク、吉岡の特産物のぶどうや乾燥芋、郷土料理のおつきりこみなど、町内には、様々な地域資源があります。

これらの地域資源を再認識し、磨きをかけ、吉岡のシンボルとしてアピールし、「キラリ」と輝く文化と観光・産業のまちづくりが求められます。

(2) 目標

吉岡町のシンボルとして、船尾滝、南下古墳群や三津屋古墳、吉岡自然エネルギーパーク、おつきりこみなどをアピールし、町の自然・文化、人の魅力を高めるとともに、伊香保などと連携し、キラリと光る観光のまちを目指します。

(3) 主な事業

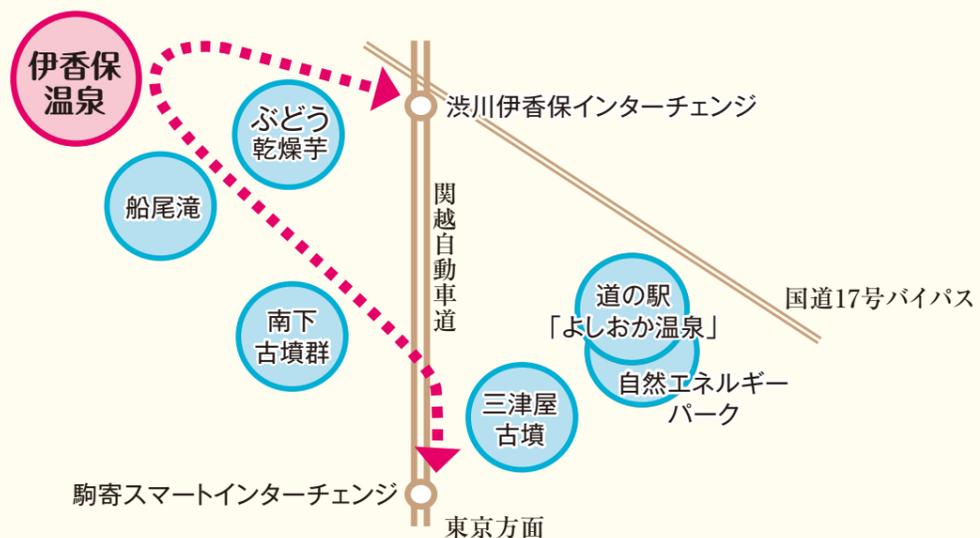
① 地域資源 PR 事業

- ・ ホームページ、道の駅よしおか温泉などでの情報発信の強化
- ・ 個性的なイベントの開催・企画及び周知

② 地域資源活用事業

- ・ 「船尾滝」の周辺整備と観光活用
- ・ 八角墳「三津屋古墳」や南下古墳群をPRするイベントや特産品開発
- ・ 道の駅よしおか温泉と連携した吉岡自然エネルギーパークの魅力化
- ・ 地域の特産品を活かした新商品の開発
- ・ おつきりこみの名物料理化とイメージづくり、渋川～伊香保～吉岡観光トライアングルの形成

渋川～伊香保～吉岡観光トライアングルの整備



2 「よしおか健康No.1」プロジェクト

(1) 背景

本町においても、子どもの時から食生活の乱れ(野菜不足、朝食の欠食、カロリー摂取過剰など)や運動不足が見られるとともに、中高年の生活習慣病や中途障害、要介護が増えてきました。

子どもの時から健康に過ごせるよう、有酸素運動や食育、心の健康づくりを進める、心身が「キラリ」と輝くまちづくりが課題です。

(2) 目標

町民が中心となり、運動や食などによる健康維持と心の安定を目的とした活動を行い、全町民がいきいきとした生活をおくり、社会保障制度(健康保険・介護保険)の安定に繋がる健康ナンバーワンのまちを目指します。

(3) 主な事業

① 有酸素運動促進事業

- ・ 健康ウォーキングのまちづくり(ウォーキングマップ作成、イベントなど)
- ・ 健康サイクリングのまちづくり(自転車通勤・通学、サイクリングイベントなど)
- ・ 温泉健康のまちづくり(温泉健康指導など)
- ・ 健康体操のまちづくり

② 食育推進事業

- ・ 食育推進計画の策定
- ・ 「毎日野菜350g運動」の推進(市民農園や子ども農園整備、家庭菜園運動、地産地消の取組みとの連携)
- ・ 「朝ごはん運動」の推進

③ 地域健康増進協働事業

- ・ 地域ごとの高齢者サロン活動の推進(健康づくりと認知症予防・介護予防)

有酸素運動・健康増進・食育のまちづくり



3 「安全・安心よしおか」プロジェクト

(1) 背景

本県では人口10万人あたりの交通事故件数が全国平均よりも非常に多く、また少子・高齢化が進む中で、高齢者の事故が増えている現状にあります。子どもや高齢者はもちろんのこと、町民を守るためにも交通安全対策の充実が強く求められています。

さらに、群馬県では地震による大規模な被害は見られないものの、埼玉県の新潟断層が旧榛名町まで伸びていることが確認されています。また、異常気象による集中豪雨などの被害が全国各地で相次いでおり、県内においても発生しています。

安全な交通環境整備への重点的な取り組み、地域防災体制の充実が課題です。

(2) 目標

町民が安心して暮らせるよう、交通事故・自然災害などの発生前の対応を心がけます。交通事故や災害などの発生時には、被害を最小限に抑えることにより、町民が安心安全な生活をおくれることを目指します。

(3) 主な事業

① 交通事故半減運動促進事業

- ・ 交通事故危険箇所の点検と歩道・交通安全施設の整備
- ・ 子どもや高齢者への交通安全の徹底

② 地域防災・減災推進事業

- ・ 自治会の地域防災体制の支援
- ・ 防災マップ、防災マニュアルなどの周知・徹底
- ・ 自助意識の促進
- ・ 災害発生時にそなえた減災方法の検討

安全な交通・防災のまちづくり

安全な交通
・ 防犯環境

住民の
生きる力と
守る力

4 「環境交通推進」プロジェクト

(1) 背景

本町では幹線道路の開通により、通勤・通学の利便性が向上し、人口の増加が顕著です。しかし、今後は国全体における総人口の減少や少子・高齢化社会の進展により、人口の伸びが鈍化するとともに、環境や安全、健康に配慮した交通社会の形成が課題となります。

「キラリ」と輝く、住みたくなる町を目指し、環境にやさしく、安全で便利な道路網や公共交通網の整備・充実を図ることが課題です。

(2) 目標

通学・通勤者や高齢者の交通利便性向上を図るとともに、環境交通社会の実現、魅力ある住宅地の開発、地域産業の活性化に向けて、交通網の整備を目指します。公共交通網と道路網、歩行者・自転車交通が相互に連携のとれた、快適で環境にやさしい、便利なまちを目指します。

(3) 主な事業

① 公共交通網整備事業

- ・ JR上越線新駅設置構想（住民ニーズの把握、投資効果の検証など）
- ・ 路線バスの検討（利用しやすい路線の検討、運行形態の見直しなど）
- ・ パーク＆ライド、サイクル＆ライドなどの検討

② 道路網整備事業

- ・ 駒寄スマートインターチェンジの大型化
- ・ 道路網の利便性向上（幹線道路を結ぶ町道の整備、交差点の改良工事等）
- ・ 安全・健康・環境に配慮した歩行者、自転車交通体系の整備

交通網を核としたまちづくり

公共交通網整備事業

- ・ 新駅設置構想
- ・ 路線バスの検討
- ・ P&R、C&Rの検討

相互利用

道路網整備事業

- ・ 駒寄スマートインターチェンジの大型化
- ・ 道路網の利便性向上
- ・ 歩行者、自転車交通体系の整備

通勤・通学・買物
等の便利なまち

環境に優しい
環境交通のまち

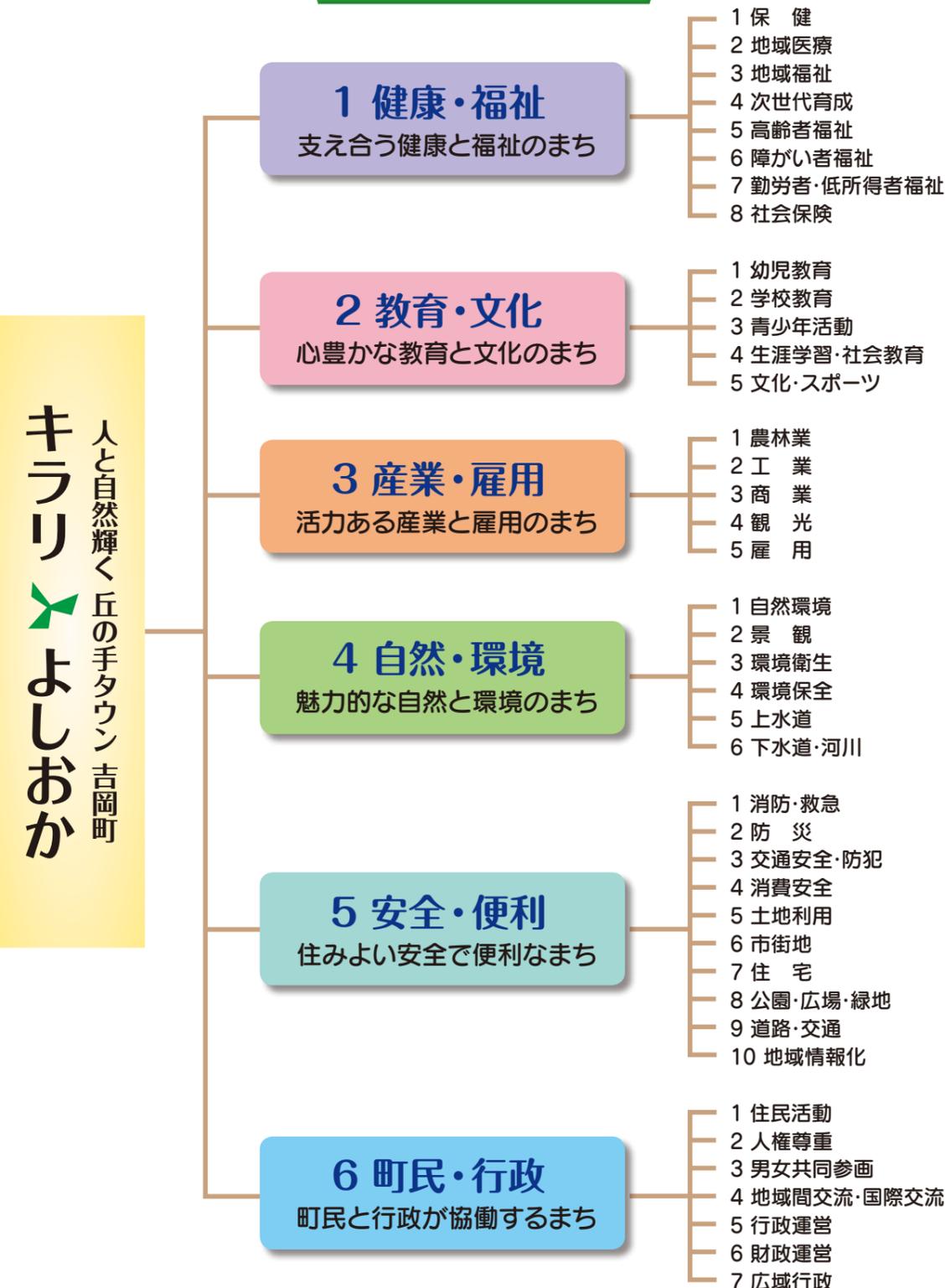
住みたくなる
住宅地づくり

新駅を核に
産業が育つまち

分野別のまちづくり方針(施策の大綱)

町の将来像「キラリよしか 一人と自然輝く 丘の手タウン 吉岡町」の実現に向け、町民と行政が協働し、次の6つの柱でまちづくりを進めます。

施策の大綱 体系図



土地利用構想

(1) 森林・緑地ゾーン

森林・緑地については、炭酸ガス(二酸化炭素)の吸収・固定、土砂災害防止等の国土保全や水源かん養、野生生物の生息、田畑への栄養分補給、潤いのある景観や保健休養、レクリエーションやスポーツなどの公益的機能の保全を図るとともに、船尾滝などの観光利用を充実します。

(2) 河川・湖沼

利根川や滝沢川、吉岡川、自害沢川、駒寄川、午王頭川、八幡川などの河川や、自然景観の保全に努めるとともに、水質浄化など自然環境の保全と回復、災害の防止、親水レクリエーションの場として有効活用を図ります。

(3) 田園ゾーン

まとまりのある優良農地は、良好な農業生産環境として保全を図り、遊休農地については貸し農園など有効利用を促進します。農村集落は周辺の自然環境に配慮した快適な田園居住地の形成を促進します。

(4) 市街地ゾーン

① 吉岡町タウンセンター

役場や保健センター・コミュニティセンター・文化センター(図書館)などの行政・文化拠点と県道高崎渋川線と伊香保街道が交差する一帯の商業地を、町の顔となる吉岡タウンセンターとして位置づけ、にぎわいと魅力のある交流拠点づくりを進めます。

② 住宅地

良好で将来負担の少ないコンパクトで魅力的な住宅地の形成をめざし、住居地域や公共下水道認可区域の既存住宅地では、安全で快適な居住環境・景観の維持と良好な住宅立地を促進します。周辺地域については、無秩序な乱開発を抑制しながら、計画的な住宅立地を誘導します。

③ 新駅検討エリア

JR上越線新駅設置の検討を行い、新駅設置にともなう駅前市街地整備の可能性を検討します。

(5) 工業ゾーン

小倉工業団地の活用を図るとともに、国道17号前橋渋川バイパス沿道の一部への工場誘致を進めます。

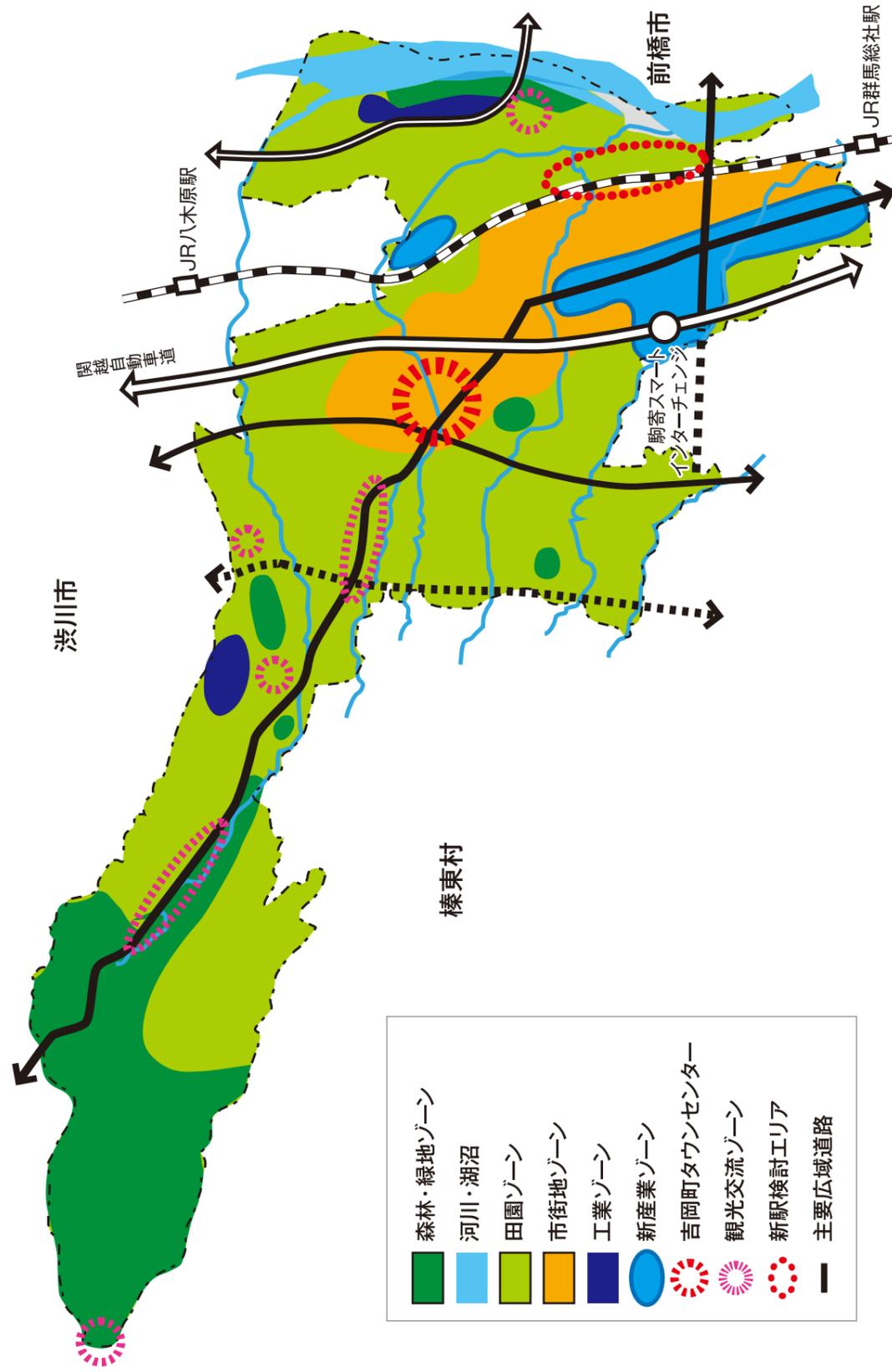
(6) 新産業ゾーン

駒寄スマートインターチェンジの大型化を進めながら、駒寄スマートインターチェンジ周辺と吉岡バイパス沿道へ優良企業の誘致を進めます。

(7) 観光交流ゾーン

かつての伊香保へのメインルートであった伊香保街道沿道と、船尾滝、道の駅よしか温泉・吉岡自然エネルギーパーク一帯では、観光商業の振興を図ります。駒寄スマートインターチェンジの大型化を進めながら、駒寄スマートインターチェンジー伊香保ー渋川伊香保インターチェンジを結ぶ観光トライアングルの形成を目指します。

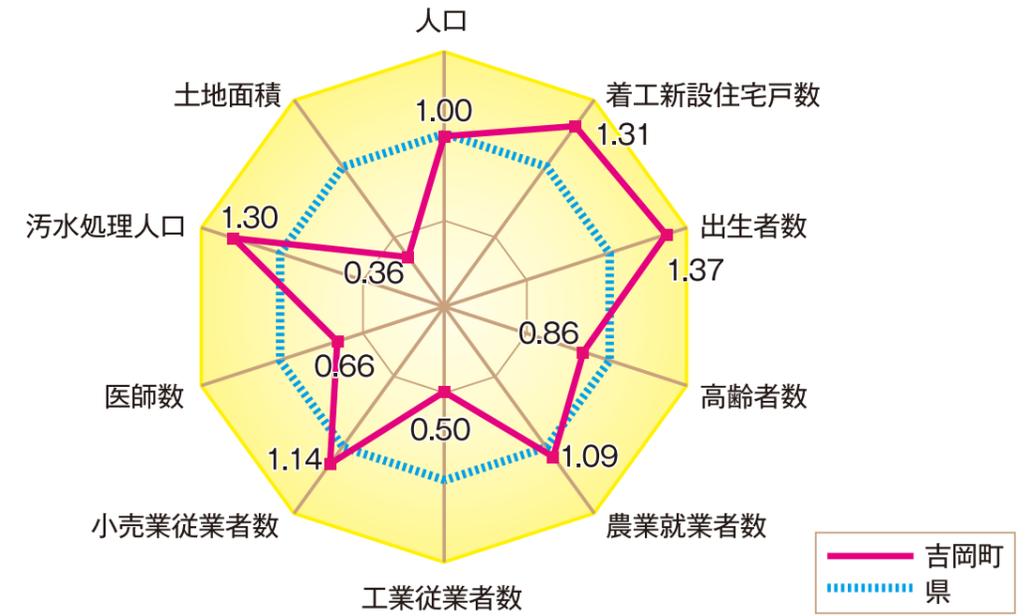
土地利用基本構想図



現状分析とアンケート調査結果

現状分析 (吉岡町が群馬県に占める割合)

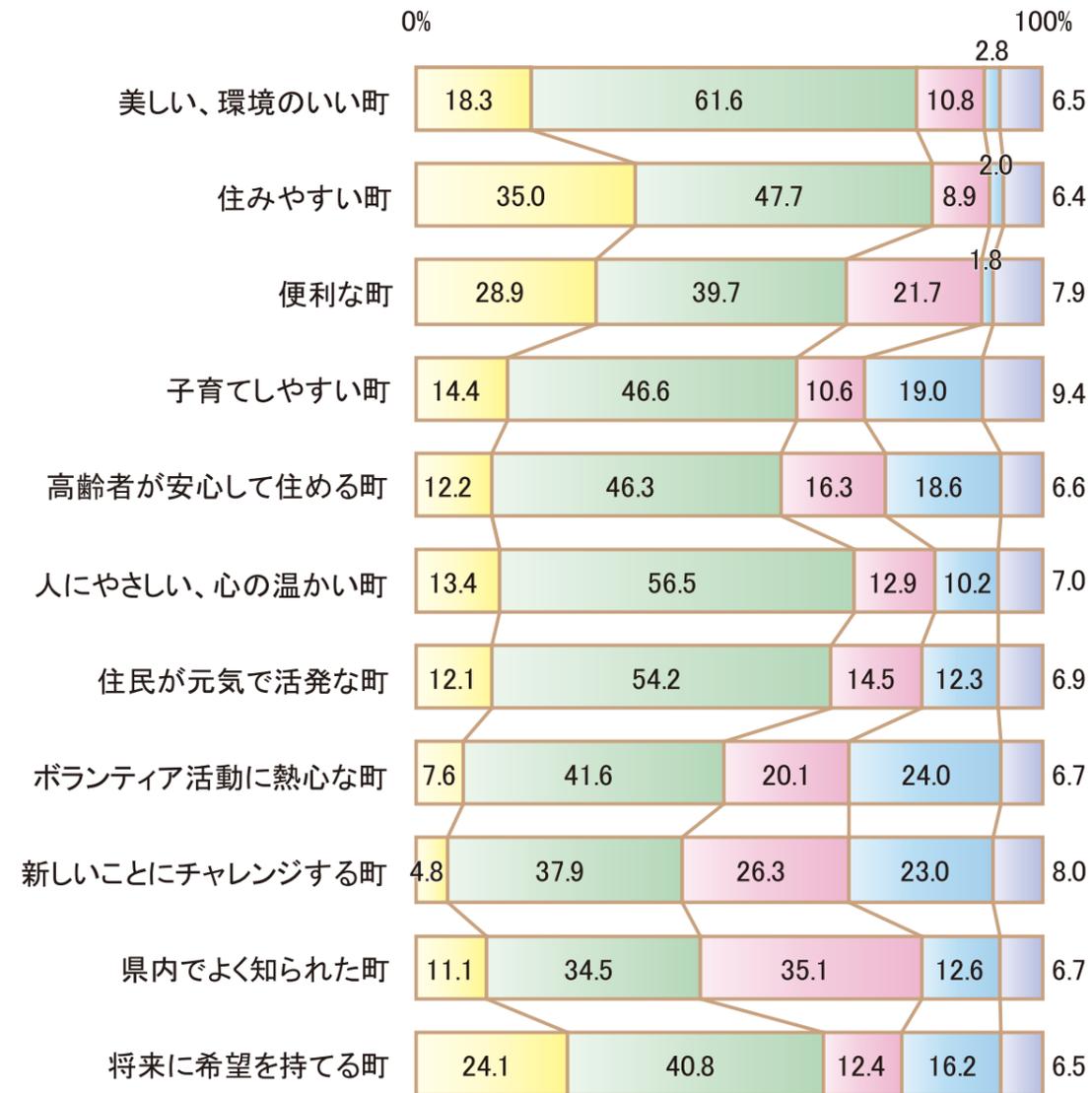
吉岡町が群馬県に占める人口の割合は、0.89%です。これを「1」としたときの各指標を表しています。



アンケート調査 (町民のまちづくりへの意向)

町のイメージ

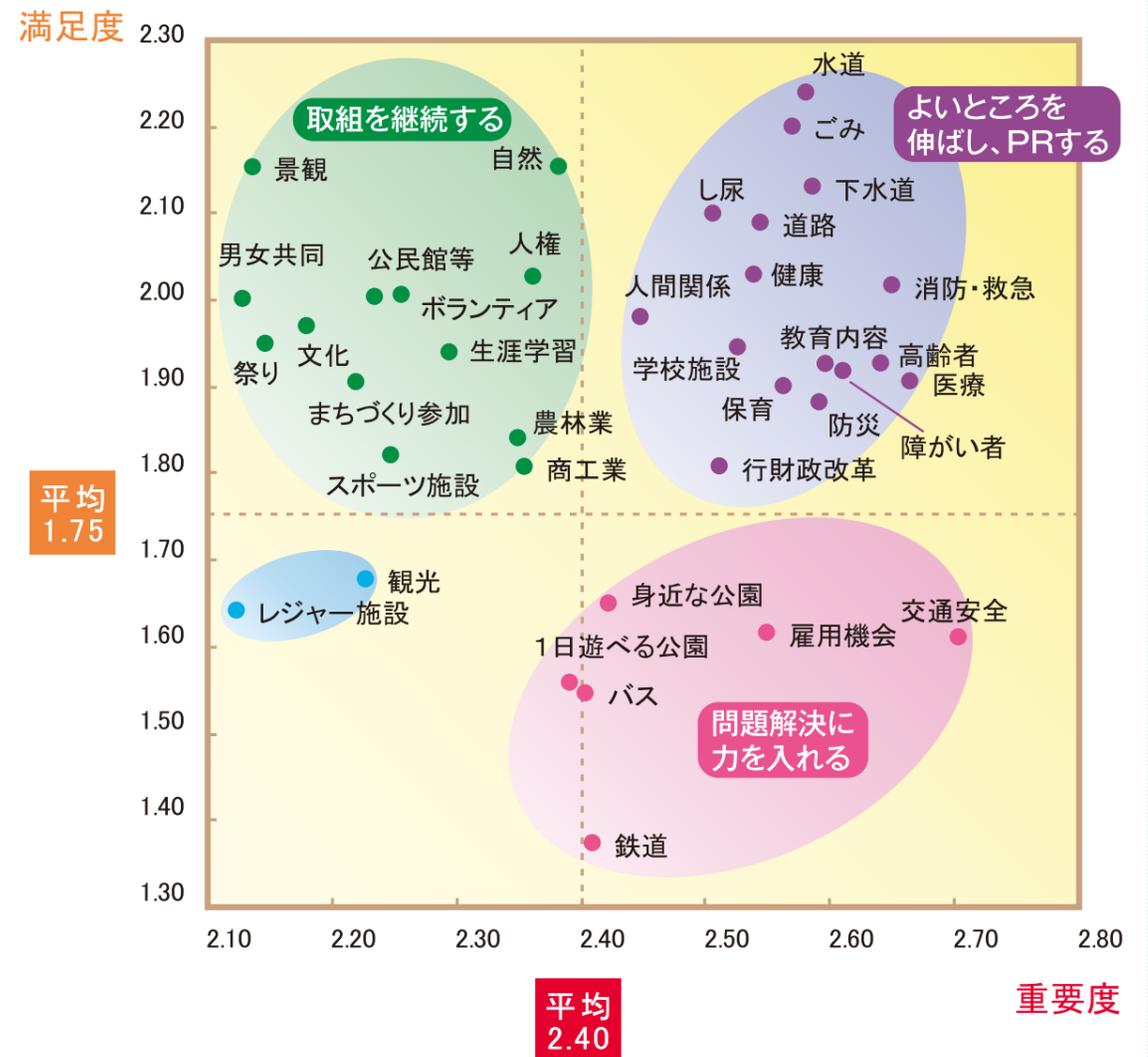
町のイメージを、それぞれの項目毎に、1つ選んでいただきました。町のイメージでは、「住みやすい町」35.0%、「便利な町」28.9%、「将来に希望を持てる町」24.1%などで「そう思う」が高く、「そう思わない」は「県内でよく知られた町」35.1%、「新しいことにチャレンジする町」26.3%、「便利な町」21.7%、「ボランティア活動に熱心な町」20.1%などが高くなっています。



■ そう思う
 ■ 普通
 ■ そう思わない
 ■ わからない
 ■ 無回答

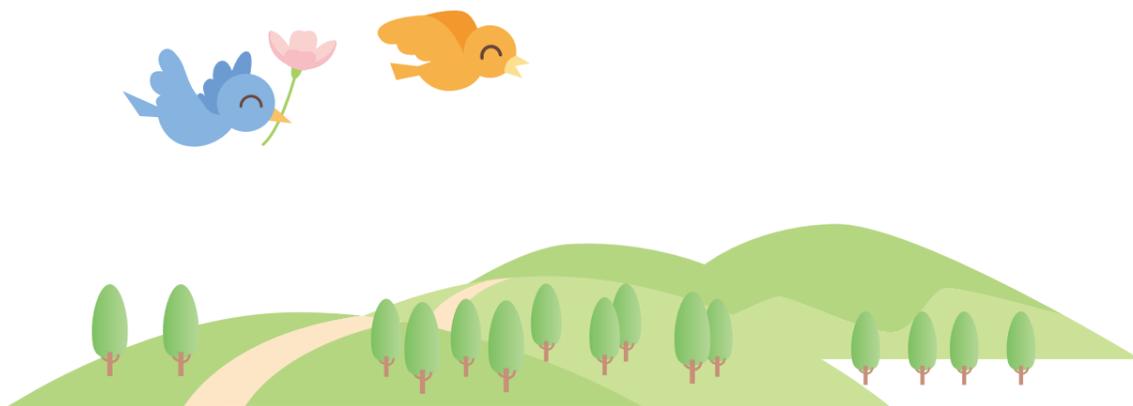
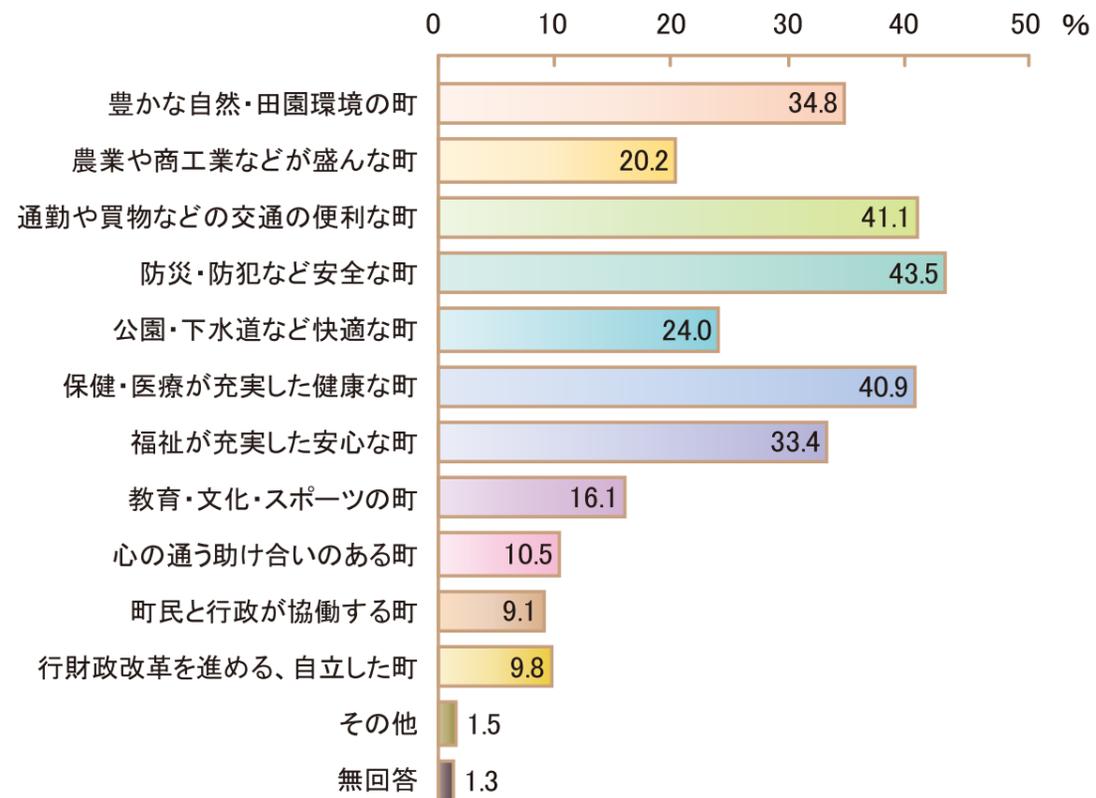
生活環境の満足度と重要度

縦軸が満足度、横軸が重要度であり、それぞれ点数が高いほど満足度又は重要度が高いことを表しています。これらを数値化して、グラフにまとめました。



町の将来像

将来の吉岡町がどんな町になって欲しいかを3つ以内で選んでいただきました。「防災・防火・救急・防犯・交通安全対策など、安全に生活できる町」43.5%、「通勤・通学や買物など、交通の便利な町」41.1%、「保健・医療が充実し、地産地消や運動で健康に暮らせる町」40.9%、「豊かな自然・田園環境の中でゆったりと生活できる町」34.8%、「福祉サービスが充実し、地域福祉活動が活発な安心して暮らせる町」33.4%などが高くなっています。



誰を中心にまちづくりを進めるか

今後10年間、誰を中心にまちづくりを進めるべきかでは、「若者を中心に」27.6%、「壮年・熟年者を中心に」25.9%、「子どもを中心に」25.0%、「高齢者を中心に」12.3%です。





町の鳥 ひばり



町の花 きく



町の木 いちよう



第5次吉岡町総合計画 2011~2020

キラリ[★]よしおか

一人と自然輝く 丘の手タウン 吉岡町

発行/平成 23 年 3 月

企画・編集/吉岡町役場

〒370-3692 群馬県北群馬郡吉岡町下野田 560 番地

TEL: 0279-54-3111 FAX: 0279-54-8681

URL: <http://www.town.yoshioka.gunma.jp/>